

美術年報

1983

徳島県美術家協会



はじめに

第37回県展は皆様のご協力で盛況に終わることができまして御同慶に存じます。役員の方々に厚く御礼申し上げます。今回より県展は二期制に致しましたために会場にゆとりができ入選率もやや緩和されました。但し総入選率 40.1 パーセントで全国的にみて県展としては非常に厳選となっております。

56年9月から発足しました「美術館基本構想検討委員会」は57年11月までに7回の委員会を持ち、基本構想最終案をまとめて12月6日に知事に報告書を提出しました。名称は「徳島県立近代美術館」とし延床面積8,000平方メートル、常設・企画展示のほか一般展示も行えるものとししました。作品の収集、調査研究のほか教育普及にも最新の施設を企画し県民の美術館として遺漏のないものとするべく検討をかさねました。土地の造成や道路の改修等のため建設の着手にはまだ数年を要すると思いますが、館長、学芸員等スタッフの人選を早目にとりかかるよう知事に要望しておきました。美術館について基本的な構想を練っただけで今後具体的な問題が多く残っております。皆様方のご協力をお願いすることが多くなると思います。ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

昭和58年1月

徳島県美術家協会会長 河野 太郎

徳島県美術家協会規約

昭和23.9.12	規約制定
32.7.14	新規約制定
33.4.29	規約一部改正
42.4.23	〃
46.4.29	〃
47.5.29	〃
49.8.22	〃
52.7.23	〃
56.5.5	〃

第1章 総 則

第1条 本会は徳島県美術家協会と称し、事務所を徳島県立図書館内におく。

第2条 本会は県内美術家の連絡を緊密にし、県美術の育成発展をはかり美術を通じて県文化の向上につとめることを目的とする。

第3条 本会は徳島県に関係のある美術家をもって組織する。会員は次のいずれかの部に属する。

- ①日本画 ②洋画 ③写真 ④彫塑
⑤美術工芸 ⑥書道 ⑦商業美術

第4条 本会は目的を達成するために次の事業を行う。

- (イ)展覧会 (ロ)講習会 (リ)講演会
(ニ)観光美術の振興 (ホ)その他必要な事業

第2章 役員および会員

第5条 本会に次の役員をおく。

- 会 長 副会長（2名）
理 事（若干名） 監 事（2名）

会長、副会長、監事は総会で選出する。理事は各部会から4名以内推せんする。役員は任期は2年として留任をさまたげない。

第6条 本会は顧問、参与および名誉会員を理事会の推せんによりおくことができる。

第7条 会長は会務を総理する。副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。監事はこの会の経理を監査する。

第8条 総会は毎年1回以上会長の招集により開き会計会務の報告、役員を選出、規約の改廃、その他重要事項の審議を行う。

総会は各部から選出した代議員によって構成し、出席代議員の過半数をもって議決する。代議員は30名以内の会員の部にあつては3名、31名以上の部にあつては、さら

に10名毎に1名選出できる。

第9条 理事会は必要に応じ会長が招集し総会の決議による会務および緊急事項を執行する。

第3章 部 会

第10条 各部に次の役員をおく。

- 部会長・委員（部会員数の3割以内）
部監事（2名）

役員は部総会で選出する。役員は任期は2年とし留任をさまたげない。

第11条 部総会は毎年1回以上部会長の招集により開き、会計会務の報告、役員を選出その他重要事項の審議を行う。

第12条 委員会は必要に応じ部会長が招集し部会務を執行する。

第13条 部会の決定事項中、各種事業を協会の名において行うときは、理事会の承認を必要とする。

第14条 各部の経費は部会1人当たり1,500円とし、その他事業収益、寄付金をもってあてる。

第4章 経 費

第15条 本会の経費は会費、入会金、事業収益、寄付金その他をもってあてる。

第16条 会費は年額3,000円とし、入会金は1,000円とする。

第17条 会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(参 考)

☆昭和23年9月12日 設立総会及び発会式を徳島市役所3階議事場で行う。事務所を徳島新聞社内に置く。

☆昭和24年5月3日 事務所を憲法記念館（現在の県立図書館）内へ移す。

☆昭和25年12月18日 協会バッヂを選定（図案は鬼塚副会長）

☆昭和33年4月29日 今迄常任委員で運営していた協会の組織を部制を設けて、各部会長及び各部委員を選出する。協会運営は各部から選出された理事（3名～4名）によることとする。

☆昭和46年4月29日 6部（日本画・洋画・写真・彫塑・美術工芸・書道）のうえに商業美術が加わり7部組織となる。

昭和56年度 事業報告

- (1) 総 会
 - 昭和56年 5月 5日
 - 県郷土文化会館 5F 第7会議室
 - 昭和55年度事業報告及び決算報告
 - 監査報告
 - 昭和56・57年度役員選出
 - 規約改正
 - 昭和56年度事業計画及び予算審議
 - その他
- (2) 理 事 会
 - 昭和56年 5月23日
第36回県美術展など
 - 昭和56年12月18日
県展反省・次回展の検討など
 - 昭和57年 2月13日
第36回県美術展等について
- (3) 第36回県美術展
 - 昭和56年11月 7日(土)～15日(日)の9日間
 - 県郷土文化会館
 - 7部門の作品展示(807点)
- (4) 第22回博美展(県博物館共催)
 - 第1期 56.5.13(水)～17(日) 写真・商美
 - 第2期 56.5.20(水)～24(日) 日本画・書道
 - 第3期 56.5.27(水)～31(日) 洋画・彫塑・工芸
- (5) 県美術講習会
 - (彫塑部主管) ○昭和56年 5月23日(土)から7月25日(土)までの毎週土曜の
10回 徳島市中央公民館
 - 人物デッサンの講習
 - 講師 彫塑部委員
 - (洋画部主管) ○昭和56年 6月 7日 県青少年センター・徳島市中央公民館
 - 人物画・静物画の講習
 - 講師 洋画部委員
- (6) 美術年報の発刊
 - 昭和57年 3月
 - 県展記録・各部門の歩み・会員名簿など
- (7) 各部委員会・その他
 - 日本画(57.1.15)
 - 洋 画(56.4.18, 5.16, 9.19, 57.2.17, 3.29)
 - 写 真(56.4.25, 6.13, 9.23)
 - 彫 塑
 - 美術工芸(56.4.25)

- 書道 (56.4.21, 7.18)
- 商業美術
- 第36回県展書道審査員打合会 (56.9.29)
- 第36回県展審査員<書道を除く>打合会 (56.10.17)
- 県芸術祭移動県展 池田会場 (56.11.21~11.23)
- 牟岐会場 (56.11.28~11.30)
- 第10回東玄書道会記念展 (56.4.25~4.29)
- 第14回成蹊書道展 (56.5.4~5.5)
- 第8回藍染創作十人展 (56.6.20~6.23)
- 第39回世代美術展 (56.6.26~6.29)
- 第37回新作日本画展 (56.7.10~7.12)
- 第5回キッスングオー美術展 (56.8.5~8.9)
- 今田史男・後藤田仁一二人展 (56.8.19~8.23)
- 第4回写真同人「炎」作品展 (56.8.28~8.30)
- 第16回清潮会書作展 (56.9.5~9.7)
- 第11回真心会展 (56.9.11~9.13)
- 県美協書道部選抜展 (56.9.11~9.13)
- 第26回書協人展 (56.9.11~9.13)
- 第28回書芸院展 (56.9.19~9.23)
- 第10回徳島雪心会書作展 (56.9.20~9.23)
- 第36回青美展 (56.9.25~9.27)
- 第11回光輪社書作展 (56.10.24~10.25)
- 第9回藍染創作十人展 (56.10.29~11.4)
- 第2回書研社展 (56.11.28~11.29)
- 第2回矢野秋浜喜寿記念個展 (56.12.4~12.7)
- 浅田二郎油彩展 (56.12.4~12.9)
- 第10回チャリティー色紙・作品展 (56.12.26~12.27)
- 第8回桂鳴書展 (57.2.5~2.7)
- 第11回四国女子大学書道部学外展 (57.2.5~2.7)
- 第7回四国女子大学文学部書道コース卒業制作展
(57.2.12~2.14)
- 徳島大学書道部第13回卒業制作展 (57.2.13~2.14)
- 徳島大学書道研究室卒業制作展 (57.2.27~2.28)
- 第11回ナルトびんぼけクラブ写真展 (57.3.19~3.22)

(8) 各種後援

第37回県美術展出品・入選等状況

部門 区分		日本画	洋画	写真	彫塑	工芸	書道	商美	計
出品数		71	222	535	31	64	1,062	78	2,063
入選	率	60.5	42.3	26.3	61.2	62.5	41.9	58.9	40.1
	特選	3	5	8	1	3	11	3	34
	準特選	2	6	11	2	2	19	2	44
	入選	38	83	122	16	35	416	41	751
	計	43	94	141	19	40	446	46	829
落選	率	39.5	57.7	73.7	38.8	37.5	58.1	41.1	59.9
	落選	28	128	394	12	24	616	32	1,234
招待等	招待	6	9	12	4	8	30	—	69
	無鑑査	—	1	—	2	—	5	—	8
	特別出品	2	3	—	—	—	1	1	7
	賛助出品	3	19	—	—	1	—	—	23
	計	11	32	12	6	9	36	1	107
展示数		54	126	153	25	49	482	47	936

37 回 展 の 記 録

会期 (第1期) 57.11.6~11
 (第2期) 57.11.13~16
 会場 県郷土文化会館

日 本 画

[審査員]	下田 義寛	長尾 弘子	荻野 行夫	田淵 冬湖
[招待]	後藤 春潮	矢野 秋溪		
	中川 健	山之内春暎		
[特別出品]	高岡 何有	森 蔦苑	高田 瑞雪	
[賛助出品]	篠原 三叢	土方るみ子	西野 和男	
[特選]	岡 英彦	佐藤芙久恵		
[準特選]	中西 芳雄	小笠原豊雄	秋元よし子	鶴 悦子
[入選]	吉崎 進	木内 トシ	藤村美津子	前川 富子
	森本 収子	森見 喜美	三好 秀雄	北島 節子
	斉藤 梅子	生杉代志明	佐々木文子	金子 綾子
	竹内 緑	岡本智津子	青山 恒雄	中原 俊江
	三上 豊	犬伏 孝子	坂本美代子	石黒 初枝
	上原 圭子	土肥 米吉	滝口 信一	土井 洋子
	野田 恵子	吉坂美智子	斉藤 誉	渡辺 泰江
	後藤田 実	山崎 紀子	東出美智子	岡 正明
	坂尾 敬治	佐竹 文雄		
	中川 正志			

洋 画

[審査員]	野見山暎治	永山 隆二	清水 亟愼	中川 隆史
[招待]	佐野比呂志	楠瀬 等	高橋 敬	立岩 巖
	川原 康孝			
	露口 敏幸			
[特別出品]	河野 太郎	平沢いさむ	長井 公雄	
[賛助出品]	天野 節	今田 史男	岡 多実子	柏木 雅雄
	後藤田仁一	武市善次郎	多田 青叙	津地 威汎
	榊田 務	松川 寛	湯本 禎三	青山 盛雄
	浅田 二郎	岡久 薫	河田 安市	黒崎 志郎
	鈴木 勝次	板東 俊一	富野 徳	
[無鑑査]	服部 裕			
[特選]	斉藤 靖子	新田 輝昭	酒井 幹代	北島 溢美
	島田 和美			
[準特選]	佐藤 敬子	三井 均	吉岡 啓子	田村 由里
	前野 亮治	川人 健司		

〔入 選〕

柳本 志保
 枇杷谷千鶴子
 西川 周三
 伊勢 圭治
 莊司 敏郎
 岡本 征二
 金丸 昌弘
 手塚 玲子
 毛利 谷子
 志摩 政照
 福野 稔
 中野 仁美
 村上 孝枝
 吉岡三千代
 浜垣 景子
 越久 高照
 濱川伊佐男
 岡本恵美子
 石井 明治
 福永 紀昭
 坂本 和生

島田 博司
 島上 二郎
 河野 英昭
 露岡 悦子
 安西 京子
 橋本 安子
 長谷川 園
 鈴木 明雄
 大谷きよみ
 谷崎 泰江
 真野 孝彦
 武田 聖子
 岸 美千代
 島村まり子
 多田 英男
 麻植 尚美
 小笠 正明
 岡 義男
 近藤 里香
 井内 達也
 原井 通弘

森 依頭
 笹川 五月
 岡田 光男
 山下 浩平
 原 泰子
 鈴江 栄治
 井沢 忠昭
 橋本 英明
 藤若 敏晴
 玉田 秀子
 高井 繁
 水間 利生
 鎌田 弘子
 吉永 房子
 滝野 佳宏
 山口美千代
 田所 米子
 下時次郎秀臣
 菊地 栄子
 中川 理仁
 岡津 正敏

高橋 浩爾
 後藤ユリ子
 金岡 義和
 柴谷 宗幸
 福本 守
 西 真一
 島村 英之
 梯 三恵子
 麻植 尊正
 平尾美智子
 近藤 玲子
 藤村 悦子
 原田 久雄
 森 美喜子
 谷井 信哉
 藤田 倫子
 浜 伸子
 弓長 由明
 中田 智子
 堀江 郁子

写 真

〔審査員〕

〔招待〕

〔特 選〕

〔準特選〕

〔入 選〕

岩宮 武二
 福島 正仁
 西条 征二
 笹田 敏雄
 森 賢一
 多田 晴美
 ○古井 謙吉
 ○林 敏彦
 ○武地 雅
 関口 務
 多留見敏男
 森 賢一(5)
 斉藤 久勝(2)
 佐野 辰夫(4)
 佐藤久美子
 難波 義勝(2)
 田中 節雄(2)

増田 清次
 勝西 雅夫
 櫛淵 魏
 橋本 圭祐
 ○森 貢
 ○森 賢一
 ○吉崎 孝彦
 ○前浦 芳久
 古井 謙吉(6)
 見渡 良治
 板東 敏晴
 西川 忠祐
 平野 祐二
 倭 恒男
 小池 良洋(2)
 十川 富義

井上 光雄
 藤井 梵
 酒井 博司
 田村 泰弘
 前浦 芳久
 ○長谷 進
 ○尾崎 孝幸
 ○中野 建吉
 堀淵 完治(4)
 安長 剛(5)
 篠原 元(2)
 井内 春行
 林 敏彦(5)
 里 精平
 田中 昭男(2)
 折野 理悦(2)

木田 英之
 武内 亨
 三好 和義
 尾崎 利男
 中野 建吉
 ○橋本 圭祐
 ○小川 勝一
 上野 照文
 逢坂 登
 篠原文彦(5)
 山下 聳(2)
 田村 泰弘
 岡崎 茂春
 田中富美子
 水口 義行

鈴木 秀次
京野 義明
佐治 利弘(2)
松井 正明
伊達 照子(2)
武知 均
荒井 賢治(2)
宮城 高士
池中 麦

岡 敬三
石田 良材
近藤 久夫
増田 寿(3)
久米 健雄(5)
田村 譲一
梅本 貞範
中野 建吉(2)
岩崎 英昭

尾崎 孝幸
新浜奈穂美
青木登四郎
富永 仁一(2)
吉田 憲介
前浦 芳久(2)
前坂 祥文(2)
井藤 光章(2)

尾崎 利男
佐治 孝(3)
多田晴美(2)
森 貢(2)
大野 武
前浦正広(2)
小西啓三(3)
清水 良亮

彫 塑

[審査員]
[招待]
[無鑑査]
[特選]
[準特選]
[入選]

山本 正道
河崎 良行
吉田 尚行
三原 博志
原田 悦子
沢井 良昭
山口 美香
藤田 倫子
林 一美

浜口 恵
松永 勉
青山 好子
瀬部 瑞
粟田 治
石井 明範
池田 悦子

井下 俊作
中南 弘史
山下 智子
山上 正一
小田 太一郎

鎌田 邦宏
福村 陽子
福生由紀子
吉原 英記
吉野咲枝子

美術工芸

[審査員]
[招待]
[贊助出品]
[特選]
[準特選]
[入選]

田村 耕一
釜床 誠一
森 浩
村上 正典
松下 慶一
橋本 嘉広
森本 収子
松山 豊
松浦フミエ
撫養ミツエ
井後 宏
三井 八郎
萬 英子
新居 文子

新居 猛
七条猪三郎
谷 育子
佐藤 光夫
生田英依子(2)
北島 洋史
松下 慶一(2)
山本 和子
高丸 富子
門田 照子
清水 泰代
小栗加代子

高橋 勇
多智花佐代子
川原万立子
岡田 源吉
森 賢一
堺 都美子
原田 史郎(2)
影谷美代子
福山 光子(2)
稲田 春雄
高田 月夫

森 昌男
松下 雄介
平野仁太郎
篠原 拓生
国行 富子
岡山ゆづ実
香川 文孝
吹田千世子
佐藤 光夫

書 道

〔審査員〕	荒井 天鶴 西岡 楚峰	田中 双鶴	田中 栢翠	富永 眉峰
〔特別出品〕	後藤 泰秀	新居 藍州	讚岐 泰泉	仲 三 千人
〔招待〕	久保 幽香 宮井 青雨 成尾 莊秀 三木田 栖鶴 美馬幾美 賀 長谷 美峰 近藤 静苑 荒井 彭仙 竹田 和代	長原 阜鶴 渡辺 草石 芝原 醒鶴 春藤 大耿 勝瀬 景流	高原 清泉 長江 清幽 前川 古舟 岸 潮風 川上 虹泉	西 南龍 原田 霄月 清水 桂月 中谷 文子 三間 好鶯
〔無鑑査〕		大松 華城	上田 溪水	岡島 順子

◇ 漢字の部

〔特選〕	武市 鳴雲	佐藤 真堂			
〔準特選〕	岡田 華苑	隅田 英二	島田 小園	亀石 文苑	
〔秀作〕	川城 峰碩	寺内 喜峰	山本 寛水	長 楽 優香	
	久積 晃陽	近藤 聖邨	駒田 水洗	宇野 野玉	
	福永 美泉	高田 青蓮	伊丹 東龍	奥野 雁峰	
	坂野 唐谷	小林 尚雲	宇田 伯翠	横田 素林	
	田村 昇鶴	多田 芝香	坂東 美濟	井内 桃園	
〔入選〕	洲崎 忠峰	南 濤江	丸谷 美苑	宇山 安俊	
	南 溪石	大東 佳華	山城 美翠	海原 曉風	
	吉本 和風	大松 久香	能仁 華瑤	吉田 素川	
	長江 頌石	以西 觀溪	山ノ井 昭泉	小西 玉翠	
	山本 清香	成清 梢風	大下 江波	吉田 美香	
	富士 愛峰	姫路 晃潮	河原 紫峰	黒田 清蘭	
	富士谷 溪雲	奈木 雪江	椎野 春翠	八木 澄江	
	新居 明峰	東浦 白亭	炭田 晴芳	佐渡 梢花	
	有井 大煌	藤村 恭子	久米 アサ子	大平 京蘭	
	五島 美舟	藤井 春琴	田中 昭峰	山本 鳴水	
	小松 柏翠	木村 濟石	曾川 由明	阿部 天柱	
	金山 恭子	後藤 静香	鈴木 翠雲	鎌田 博久	
	新居 藍水	岡島 朱伯	山内 雅風	吉田 溪舟	
	大谷 隆晴	久米 香風	板東 松香	板東 紅城	
	川上 善生	三木 祐子	佐藤 千種	瀬川 清淵	
	熊代 厚子	宮越 小雨	宇山 耿鶴	矢野 雲海	

岡崎 真理	速川 桂女	近藤 大谿	久米 幸子
鳥居 汀香	春藤 勝弘	鈴木 恵理	赤松 幽石
西岡 詩峰	蓑手 洋子		

◇ 仮名の部

[特 選]	中尾 勝子	松田 友栄	山中 真紀	藤若 美風
	若木 聖章	吉岡 景鵬		
[準 特 選]	清水 嘉子	大石加代子	富久 鳴泉	犬伏 礼子
	広島 章子	市原 瑞江	高島 瑞峰	松本 清香
	尾田 艶子	磐崎 永醒		
[秀 作]	田中 久恵	炭谷 葭江	佐々木翠峰	楠本比呂美
	早澤 翠彩	仁木 文苑	表原 輝美	宮田 美鶴
	下村 清子	関 ひとみ	山上 珪璋	藤井 春琴
	藤井 扇舟	三間 華風	瀬藤 豊子	大塚 美溪
	中村 佳翠	大南 利鶴	井内 晃流	藤川満里子
	松家 祥	蓑手 洋子	谷酒 秀雲	西浦 智頼
	樫原 孝子	竹中喜代子	増田 愛子	中川るり子
	谷口 汀鶴	大松 洋子	大松 華雪	畦地 佳子
	近藤まち子	古山 久子	中村 彩扇	清村 宗子
	横井三知代	加藤 芳仙	吉田 史艸	光井 明美
[入 選]	坂口貴美子	辻 柏泉	辻 恭子	吉成真由美
	坂東 華丘	坂 青翠	島田 敏江	富士山市子
	佐藤 佳泉	竹内 虹舟	井上 康子	高尾 照子
	高田 遊苑	美馬 貞恵	樋富 喜美	菱崎 奈美
	喜内恵美子	中村 浩子	加村喜美子	小堀 真利
	西尾 恵花	中野 芳泉	浅野 真弓	藤見 博美
	笠井 宣江	上野 美恵	野上いづみ	田村 明美
	張 純子	佃 美記代	岸田いち子	近藤 華流
	平田 敦子	上田 幸子	宮城 明子	宮崎三和子
	赤岩 美幸	福島 由子	阿部 芳雲	住友 瑞堂
	中野ハルエ	田中 千恵	山口 喜久	小泉記代美
	河見 信恵	山西 恵可	中筋 良江	中筋 滋子
	杉本千枝子	枝川 照子	高橋 尚子	鈴木 幽峰
	由利 里子	堀淵 琴流	中西 甫子	海野 景泉
	坂東 美鈴	藤本 則子	藤井 富美子	弘田 和加
	谷口 昇子	平山 沙雲	八嶋 芳泉	亀石 文苑
	宮本 博子	吉岡 春蘭	有沢由香里	松永 裕子
	細田 恵美	橋本 碧川	古郷 弘江	吉田美重子
	山本 恵子	近藤 由賀	久保 浩子	是角 敬子
	長田 千尋	松本 良子	国見 由香	阿利美智代
	酒巻 徳子	河野 福美	佐川 由美	小出 圭子

薄田 珍泉	小浜 景玉	須原 理恵	高見 典子
佐藤 啓子	徳山 景城	小西 敬子	横堀 恵子
高橋 純子	岩橋 賀瑞子	秋吉 栄華	桐野 玉葉
高田 啓子	山中 桂	平良 多佳代	北川 由美子
酒井 梅代	木村 美香	小井田 境子	山岡 加代子
川内 由美	大西 玉美	大栗 奈津	森島 八恵美
阿部 千秋	坂本 弘子	塩田 久子	森平 茂美
和泉 かなえ	橋田 富子	細川 陽子	井村 友子
上野 由佳里	米津 溪泉	三浦 富美代	西谷 香峰
北橋 栄子	大久保 紀子	大石 真香	大澤 由美子
森本 紫峯	石井 直美	中川 恭子	飯領 田久江
大下 喜久美	田所 明美	高野 雪美	米沢 美穂
松原 由美	政岡 睦代	松田 康世	松本 訓枝
井上 明美	横山 美子	香西 三穂	桜間 朱美
宇多 千秋	東原 睦美	上杉 好恵	武田 詩夜
中山 富士代	柴折 郁	菅 久美	諫山 裕美
山中 佳代	森川 公美子	森田 潤子	吉田 知代
西木 久美子	森下 佳代	澤野 裕子	大櫛 堆川
中尾 光江	兼松 孝枝	新開 ひとみ	高田 江雲
齐田 寿子	青谷 薫	棚橋 華江	赤川 久美子
谷山 和佳美	田中 映子	金崎 知子	西川 知子
西村 三和子	岡林 知佐	竹部 章子	藤川 満理
立花 みゆき	藤川 百合	佐藤 靖子	須藤 華生
桑原 仁美	三木 浩美	筒 由美子	森尾 美紀
岡 里美	播磨 恭子	近藤 マサエ	新居 芳翠
笠原 小夜子	菖蒲 和風	稲飯 文亨	西村 佳峰
豊浦 佳子	古郷 恵美	松浦 瑞代	西窪 貴子
木村 弘子	米沢 和美	橘 優香	吉成 真於
四宮 久子			

◇ 近代詩文の部

〔特 選〕	坂本 霄風	永松 春苑	小田 創風	青柳 随風
〔準特 選〕	久米 聴香	多田 清芳	藤田 弥山	浜 佳香
〔秀 作〕	佐原 武子	粟田 白蓉	上野 尚穹	
	横谷 千代美	佐藤 宗香		
	庄野 もと			
〔入 選〕	青柳 阜陽	大松 碩城	鈴木 厚子	内藤 佐江子
	豊田 乾香	川又 敏香	武知 美千子	福島 初子
	川端 喜美子	坂尾 俊一	斉藤 房子	野村 鳴洋
	石井 美美子	瀬戸 内鐘香	春川 青超	佐野 天靖
	喜多村 成蹊	河野 富仙	大島 溪石	仁田 典子

木田 史子	尾上 昭子	岩本 雅三	南 孝雄
丸田 三恵	永峰 郁子	林 臯葩	日開 臯扇
山口 文子	近下 守	福永 培子	野村 英倦
高木 菜月	大崎 辰雄	森岡 禎幽	下野 順子
勝瀬 泰子	藪内 扶桑	斉藤 虚白	篠原 和枝
森本 陽子	森本 淳子	富川 博久	遠藤 敏子
高岡 晃祥	加島 流芳		

◇ 前衛の部

[特選]	日下 溪翠				
[準特選]	竹内 秀翠				
[秀作]	森田 美翠	出淵 翠右	林 桂翠	田中 秀翠	
	山田 幸司				
[入選]	新見 榎邨	南本 芳翠	横島 翠雨	瀬部 楊翠	
	五藤 翠青	前川 益江	伊丹 香風	花岡美恵子	
	佐田 景子	山下 美鈴	住友 松風	松村 祥風	
	酒巻 徳子	久保 翠谷	亀本 枝翠	永井 厚子	
	福永 光志	田村 雙風	江口 江月	八光 秀美	
	酒井 理恵	曾我部多重子	山本 歩	仙頭 雅子	
	森田 潤子				

商業美術

[審査員]	粟津 潔				
[特別出品]	宗定 盛男				
[特選]	坂本三千一	深見満寿美	渡辺 和寿		
[準特選]	芦田希早子	永井 道子			
[入選]	増田 和夫	石田 武	坂本 美佳	宮本 光夫	
	野見山まゆみ	岩佐 俊彦	山下まゆ子	西 真一	
	菊原 隆蔵	尾崎 田和	福永 紀昭(2)	新田 輝昭	
	寺本 礼子	市川 京子	長山 桂子	武田久美子	
	藤本 孝明	三栖 功敬	芦田希早子	深見満寿美	
	岡田 澄代(2)	加島 由季	環 民子	田村千代子	
	高原まゆみ(2)	大串 淳	山本 恵子(2)	近藤 駿男	
	浅野 昌哉	坂野美恵子	斉藤 繁次	渡辺 祐治	
	吉本 實	田中 一郎	久武 典博	吉本たみこ	
	井内 郁子				

招待・無鑑査・特別出品規定（昭和51.6.13制定）

☆ 次のものを招待とする

- 1 無鑑査出品を3回以上得たもの。（ただし、年回の間が5年を経て、その間に特選・準特選の受賞ないときは失格）

☆ 次のものを無鑑査とする

- 1 特選を連続3回得たもの。
- 2 第1回より年回を問わず特選を5回得たもの。（ただし、年回の間が5年を経て、その間に特選・準特選の受賞のないときは失格。準特選2回をもって特選と同値とする）
- 3 前回展の無鑑査出品者にして、特選または準特選を得たもの。

（注）同じ年回に特選及び準特選を重賞した場合は、それぞれ特選及び準特選を1回得たものとする。

また、特選と準特選を重賞した場合は、上位の賞を得たものとする。

☆ 次のものを特別出品とする

- 1 理事会で認めた会長、副会長、顧問、名誉会員、参与、審査員。
- 2 理事会で認めた各部会長、顧問、参与。

（注）1 招待及び無鑑査出品者が出品しない場合は、理事会で認められた事由がない限り、その資格を失うものとする。

2 17回展までの奨励賞は準特選と同値とする。

3 この規定以外で審査をうけず出品する場合は、理事会の承認を必要とする。

愛媛・高知・香川の県展事情

洋画部会長 平 沢 い さ む

昨秋(註.56年秋)「日刊新愛媛」の美人の女性記者が四国四県の県展事情を取材に巡っていると、本県にも訪れた。その後、「レポート81文化団体の現状と悩み、四県の県展」と云う見出しで掲載された、同新聞を郵送してくれた。

本県の県展・今後の運営にも大へん参考となると思うので、その記事の一部を拝借して抜粋してみよう。

◎ 愛 媛 県

県展発足30年、主催・運営は、作家集団である「美術会」が運営している。昨年(註 昭和56年)の搬入数は1896点、会場は昭和45年に美術家の努力によって完成した、四国で唯一の専属の美術館で開催されている。会期は去年(註 昭和56年)から2期制となった。審査員は、県内「美術会」のベテランクラスの会員が1年交代で審査に当たっている。日展系の具象作家が多く、県展内部に現代美術の新風を吹き込むべく「美術家集団」が昭和40年に誕生した。併し県内作家の集団だと、師弟関係や、派閥を形成しやすいと云う悩みもあるようだ。

◎ 高 知 県

高知県展は昨年(註 昭和56年)で35周年、高知新聞社の単独主催、搬入数3635点、入選数665点、5.5倍の狭い門である。県民150人に一人は作品を出品し、18人に1人は会場を訪れると云う高い参加度である。第35周年記念賞にヨーロッパ美術館巡りの副賞を出して関心を集めた。

審査は初期には、県内の審査員が当たっていたが、昭和45年から情実に左右されない県外審査員が当るようになった。その年の審査員が決っても内密にし、公表するのは搬入日の2週間前にするとのことである。会場は高知県立郷土文化会館で開かれているが、壁面が狭あい、専属のギャラリーとしての美術館建設の要望が高まっているようである。

◎ 香 川 県

県展の歴史は四国でも最も古く、昭和9年以来、今年(註 昭和56年)で46回(戦争中2回中断)を重ねている。部門は、日本画・洋画・彫塑・工芸・書・写真の6部門、一般公募作品は3部門に別け、前後期の2期、さらに各部門の招待・委嘱・受賞作品を一括して2期に展示し、会期は、各部門それぞれ11日間づつ開催される。応募作品821点、入選348点、入場者は11000人、主催は県の単独主催で、出品料は一切無料とのこと。

審査は、県内作家で行われていたが、一昨年(註 昭和55年)から情実に左右されない県外作家に依頼することになったとのことである。

付 記

昨秋(註 昭和56年)の県展、洋画部審査員として、ご来県された、吉井淳二画伯は、鹿児島県のご出身で、鹿児島県の美術事情をいろいろと話されたが、県展の賞として、海外派遣賞2人(1年間、300万円)を新聞社・スポンサーから、年間の優秀賞として吉井賞(パリ留学1年間、300万円)県教育委員会から、美術・音楽部門から(1人、100万円)の賞を出しているとのこと、さすがに、黒田清輝、藤島武二、海老原喜之助等の大家をはい出している県だけであると感心されました。

(註 この原稿は、1982美術年報に掲載することいただいた原稿ですが、編集子の手違いから1年おくれて掲載いたしましたこととお詫びいたします。)

各部記錄

日 本 画 部

部 会 長 後 藤 春 潮

年 間 展 望

◎ 第37回 県美術展 (11/6~11/11 郷土文化会館)

院展の中堅作家として活躍中の下田義寛先生を迎えて審査が行われたが氏の作風からも感じられるように落ち着いた品のいい中に重みのある審査だったと云えよう。審査はそれは慎重に当たられた。決して始めから落の作品を裏返したり除外したりしなかった。くり返し検討してあれこれ作品を見くらべて居られた。そのために出品点数71点の40%いわゆる落選の数の28枚のカードを作らせられ作品の下にそとカードを置いて行かれた途中手に残るカードを見られて「まだこんなに落さねばなりませんか」「こんなにレベルの高いものを、あとはみんな入選です」など落すのに苦慮して居られたようすだった。年々レベルが向上している中での審査であったから氏の手の中のカードがなくなるまで落された作品の中には当然入選していい作品があることを残念に思う。県展目録の中にも書かれていたように「全般的に作品の質からいっても大きさからも相等レベルが高い、みなさん色がきれいだし、モチーフも多彩だ、中央志向といったものを感じないし独自のやり方で制作してうれしく思う」といわれていた。地方にあって絵を描くものにとって、この最後の言葉に意を託しよりよき地方のあり方を考えて制作にはげみたいと痛感したものである。

◎ 第23回 博美展 (5/26~5/30 県博物館)

出品点数は昨年にくらべ僅かではあるが3点増しとなり作品内容では全般的に言って色彩感覚に富んだ作品が多く見られよい傾向でもあり好感がもてた展観であった。

博美賞には金子綾子の「仏院への祈り」が選ばれ色彩感覚特に人物とバックの色調効果が優れた作品であった。優秀賞では中川正志「花」は新鮮な感覚でまとまり、斉藤梅子の「岬」は素朴なローカル風景をよくまとめた作品であり、その他入賞にもれたが日浦猛史、森川ツタエなども印象に残った作品であった。(審査員 田淵冬湖・中川 健)

◎ 第38回 新作日本画展 (7/9~7/11 郷土文化会館)

今回の出品点数は134点で前年より10点の減少を見た。しかし作品のレベルは年々更に向上して来ている。例年のように役員投票によって優秀作品13点を選び披露した。

(新作大賞) 「人物」秋岡茂人

(新作賞) 「竹」片山敏夫、「六月の日」中川正志、「山」山本志男、「涼」松本利子、
「参道」高橋真順

(佳作賞) 滝口信一、西野和男、橋本雅子、吉坂美知子、宮城蒼泉、小笠原白芳、久保脇祥雲

◎ その他部会員の活躍では中央展関係をはじめ、本年も精力的な活躍のあとを示し成果をあげた年であった。また3月には日本南画院展では森苑菟氏が文化賞を矢野・長谷両氏が院賞

を受賞した。なお8月の日本南画院役員改選で矢野・長谷両氏が理事に推薦された。ほかに12月の第9回日象展で前川富子氏が入選されたのもよろこばしい限りである。その他年間を通じ県内外での展観行事並びに参加された諸氏を消息でお知らせしたい。

< 消 息 >

1月	(十二支) 壬戌展	鳴門四電ギャラリー	村上・高田
"	画展子ふるさと	郷土文化会館	矢野・篠原・森・高田・長谷・佐藤 ほか
3月	第3回むや園日本画展	鳴門四電ギャラリー	高田瑞雪ほか塾生出品
"	第22回日本南画院展	東京・京都・大阪	森(文化賞)・矢野(院賞)・長谷(院賞)・篠原(会長賞)・村上・高田
"	第11回徳島市文化展	郷土文化会館	日本画部徳島会員参加出品
5月	第7回ふるさと鳴門展	鳴門市文化会館	鳴門日本画部会員全員参加出品
"	第20回阿南市美術展	阿南市民会館	篠原・森・長谷ほか
"	第17回日本墨彩画院展	新居浜市美術館	森(準文部大臣賞)・長谷(特賞)・矢野・高田・篠原
"	第23回博美展	県博物館	(審査員)田淵・中川 (委嘱出品)部 会役員 その他部会員ほか
6月	第18回春潮社日本画展	郷土文化会館	後藤春潮ほか塾生出品
7月	第5回国際水墨研究展	京都市勧業会館	篠原・森・高田・長谷・佐藤
8月	第38回新作日本画展	郷土文化会館	日本画部会員並びに公募作品
"	絵で見る徳島展	"	矢野・篠原・森・高田・長谷
"	第11回中央展出品画展	"	矢野・村上・篠原・森・高田・長谷 ・佐藤・今川
"	諏訪神社天井絵(揮毫)	鳴門市里浦町恵美須	高田瑞雪(揮毫82枚)
"	鳴門日本画協会展	鳴門四電ギャラリー	鳴門日本画部会員参加出品
9月	日中合同美術展	北京市美術館	森・篠原・佐藤
"	明倫山耕福寺絵天井展	小山助学館	木内トシ
"	第16回珀雲社日本画展	郷土文化会館	森・篠原・長谷・佐藤ほか
"	第40回有秋会日本画展	大阪市立美術館	森・篠原・長谷・佐藤
10月	第35回鳴門市展	鳴門市民会館	鳴門日本画部会員全員参加
"	第53回徳島女流美術展	郷土文化会館	長尾・上原・木内・寺井・土井・林 ・土方・森・吉村・姫野・高橋 同上
"	第11回仙台徳島交流女流美術展	宮城県立美術館	
"	第11回阿南市美術展	阿南市民会館	森・篠原・長谷ほか
11月	那賀川町文化祭	那賀川町民センター	篠原
"	小松島市展	小松島福祉会館	篠原
"	明神大元神社天井絵	鳴門市瀬戸町	村上凌雪(製作120枚奉納)
12月	第9回日象展	東京都美術館	前川富子(入選)

洋 画 部

部 会 長 平 沢 い さ む

年 間 展 望

- ◎ 県展、今年の審査員は芸大客員教授の野見山暁治画伯、審査後の所感「上手な作品が落ちて、下手な作品が入選したかも知れない。巧いが、何か訴えてこない作品は落ちた。自分に密着した仕事をする、一面反発精神を持つこと、いろいろな作品を見て、小さく落ちこまないことも大切だ。」と言われた。
- ・昨年度、この欄で審査終了後、審査員から批評を受ける人が少ないことを書いたが、今年には多過ぎる程で、画伯は作品を前にして、懇切なて批評を頂いた。
 - ・今年の出品数は昨年度より18点減少したが、出品者数は増加の傾向にある。

年 度	回	出品者人数	出品点数
53	33	146 人	239 点
54	34	153 人	222 点
55	35	185 人	265 点
56	36	166 人	240 点
57	37	191 人	222 点

- ◎ 本年度の企画展で特筆すべきは、下記の三展であろう。
- ・ミレー、コロー、クールベ展 12/4～28 千秋閣
日本の洋画は明治になって、印象派を輸入したが、それ以前のフランスに於ける、自然主義、写真主義の巨匠のオリジナルに接したことは、大変意義のある展観であった。この展覧会には多数の県民が鑑賞したが、会場の狭いことと、照明の位置が悪いなど会場等に問題があった。
 - ・現代美術選抜展 12/10～26 郷文
現代日本の公募美術展15団体から推薦された、受賞作品を中心に、文化庁買上げ作品を加えての展観。今日の日本美術の水準、動向を知る上で意義のある展観であった。
 - ・荒川修作全版画展 6/3～13 郷文
ニューヨーク在住の、世界的な評価を得た、前衛画家の荒川修作の全版画展で、徳島の一般や、作家にどれだけの感動と反響を与えたか、新しい絵画は、否定から、創造が生れるということだが。
- ◎ 県芸術祭の洋画部門は、グループ展、個展共に低調だった感じがした。
- 優秀賞（三沢尚子、立岩 巖）
 - 新人賞（細川政広、三好初子）

(公 募 展)

- 第37回 県美術展(第一期) 11/6~11 郷文
搬入数 222点 入選94点 入選率57.7% 特別出品3点 招待出品9点 賛助出品19点
特 選(斎藤靖子、新田輝昭、酒井幹代、北島溢美、島田和美)
準特選(佐藤敬子、三井 均、吉岡啓子、田村由里、前野亮治、川人健司)
- 第23回 博美展 第一期 5/12~16 博物館
搬入数 121点 入選48点 入選率39.6% 委嘱特別出品15点
博美賞(藤川明子)
優秀賞(中川理仁、河内幸代、藤沢洋子、吉永房子、四宮久子)
- 第9回 徳島市文化展 3/13~18 郷文
市長賞(四宮久子)
市議会議長賞(手塚玲子)
教育委員長賞(森 依頭)
徳島新聞社賞(細川政広)
市文化会長賞(篠原加代子)
- 第12回 教職員美術展 2/5~7 郷文
知事賞(弓長由明)
教育委員長賞(横田美知子)
教育長賞(手塚テル子)
支部長賞(松永 勉)
準特選(篠原久美子、高野倫代、露口倫子、原カズ)

(企 画 展)

- ふるさとを描き遺す会展 1/22~24 郷 文
- 第一回徳島平和美術展 1/24~26 郷 文
- 県出身美術家展 4/2~11 千秋閣
- 第35回示現会展 6/17~22 郷 文
- 現代スペイン絵画展 6/25~30 丸 新
- 江戸おんな浮世絵展 7/3~18 郷 文
- 第21回現代洋画秀作展 7/8~12 郷 文
- 中央展出品絵画展 8/1~15 郷 文
- ミレー、コロー、クールベ展 12/4~28 千秋閣
- 現代美術選抜展 12/10~26 郷 文

(行 事)

- 第12回 美協洋画部講習会 5/23
場 所 麻植郡川島町 公民館周辺
参加者 75名

風光明媚な、川島公園を遠望する小川のほとりで制作、公民館で批評会を行い、大変盛会であった。

(グループ展)

・第35回 新紀会展	1 / 27~31	眉 峰
・陽友会展	1 / 29~31	郷 文
・松美会油画展	1 / 6~8	四 電
・耽美会展	1 / 23~25	四 電
・試 展	3 / 26~30	郷 文
・第10回 虹の会展	4 / 6~8	郷 文
・新進作家油画小品展	4 /	
・第一回 グループ九油画展	5 / 1~5	眉 峰
・現代具象小品展	5 / 7~12	翠 峰
・徳島美術グループ小品展	5 / 12~14	四 電
・なかがわぐるーぶ展	5 / 18~20	眉 峰
・あーとるーむ油画展	5 / 22~24	四 電
・第 5 回 八紅展	5 / 27~30	郷 文
・救援美術展	5 / 28~30	郷 文
・鈴木山賊油画作品展	6 / 14~30	四電協町
・第 7 回ふじいあさ個展	6 / 18~20	郷 文
・県内外作家洋画展	6 / 19~29	眉 峰
・阿波銀、絵画部展	6 / 19~29	四 電
・第40回 世代美術展	6 / 24~27	郷 文
・五 人 展	7 / 24~20	友の愛
・あすなろグループ展	7 / 24~27	四 電
・12 人 展	8 / 4~7	眉 峰
・第14回 土曜展	8 / 8~11	四 電
・む アート展	8 / 26~29	郷 文
・第11回県民まつり絵で見る徳島展	8 / 1~15	郷 文
・期待の版画新人作家展	9 / 12~20	眉 峰
・第37回 青美展	9 / 14~16	郷 文
・第 4 回 鴨島洋画グループ展	9 / 23~25	郷 文
・第 7 回 あわ洋画ぐるうぶ展	9 / 23~27	眉 峰
・徳島美術グループ作品展	10 / 6~9	郷 文
・第 3 回 東光会徳島支部展	10 / 7~10	郷 文
・第53回 徳島県女流美術展	10 / 8~10	郷 文
・第 4 回 美術文化四国支部展	10 / 8~11	郷 文
・旺玄会徳島支部展	10 / 9~13	眉 峰
・第14回 石井美術の会作品展	10 / 26~28	郷 文
・第16回 小松島美術展	11 / 1~3	小松島福祉会館
・白鳳洋画グループ展	11 / 1~9	四電鳴門

- ・第4回 洋画グループゼロ展 11/3～7 眉 峰
- ・バージット会洋画展 11/20～23 四 電
- ・モダンアート協会徳島支部小品展 11/26～30 眉 峰
- ・第35回 ベニウズ展 12/16～19 四電鳴門
- ・抽象表現の画家たち展 12/17～22 翠 峰

(個 展)

- ・加島保行洋画個展 1/15～17 郷 文
- ・おくむらながこ油画個展 1/16～19 四 電
- ・葛西四雄洋画展 1/22～27 丸 新
- ・宮佐由紀、千秋彫刻油画展 1/26～31 野々瀬ギャラリー
- ・真鍋照恵 中国の旅油画展 1/12～21 UZU珈
- ・松任谷国子展 1/19～25 丸 新
- ・渡辺俊二、紀世作品展 3/4～7 郷 文
- ・磯貝輝夫 木版画展 3/5～10 翠 峰
- ・芸術は爆発だ、岡本太郎の世界展 3/19～25 丸 新
- ・村松昌三個展 3/25～27 四 電
- ・四宮久子、中辻奈美枝二人展 4/27～5/4 UZU珈
- ・藤川明子作品展 5/1～3 四 電
- ・宮佐由紀、千秋二人展 5/7～11 眉 峰
- ・リチャード・リンドナー展 5/21～26 翠 峰
- ・湯浅正明洋画個展 7/16～20 翠 峰
- ・津田季穂遺作展 7/21～25 郷 文
- ・平田ゆたか洋画個展 7/21～25 USU珈
- ・鎌田邦広個展 8/7～13 UZU珈
- ・藤本富夫、阿波踊り油画展 8/10～16 眉 峰
- ・永山隆二油画展 8/10～31 プラザハレルヤ
- ・生田浩二習作展 8/18～20 四 電
- ・上松由美油画展 8/26～30 郷 文
- ・第2回 青木和子個展 9/5～8 四 電
- ・第4回 細川政広絵画展 9/17～20 四 電
- ・林 哲夫個展 9/26～10/4 UZU珈
- ・佐伯幸子個展 9/26～10/4 UZU珈
- ・三沢尚子水彩画展 9/10～12/26 プラザハレルヤ
- ・小林今治油画○号展 10/13～16 四 電
- ・柏木雅雄、加納正則二人展 11/20～24 眉 峰
- ・河野太郎ミニチュアール油彩展 12/11～14 眉 峰
- ・仁宇咲子個展 12/1～10 UZU珈
- ・浜崎千代子個展 12/11～21 UZU珈

- ・鈴木山賊個展 12/11~21 UZU珈
- ・津地威汎個展 12/16~1/16 友の愛

(会員、個人消息)

佐野比呂志	第40回独立美術展出品	山口 和子	全展入選
	第20回全日本美術展出品	岡田 守	全展入選
立岩 巖	全展出品	中村 晴代	全展入選
	全展関西展出品(全展賞)	津地 威汎	国展出品
	県芸術祭優秀賞	犬神 良代	自由美術展入選
板東 弘憲	全展出品	板東 俊一	大潮会入選
堀切 薫子	全展出品	四宮奈美枝	二紀会入選
藤川 明子	全展入選		(同人推挙)
	(会友努力賞)博美展(博美賞)		
四宮 久子	二紀会入選	毛利 谷子	東光会入選
	徳島市文化展(市長賞)	武市善次郎	形象派展入選
	博美展(優秀賞)		(準会員推挙)
岡本 征二	二紀会入選	中川 隆史	形象派展入選
河田 安市	白日会出品	清水 亟悞	モダンアート展出品
松尾 彰滋	白日会入選	浜口 恵	モダンアート展出品
	(文部大臣賞準会員推挙)	松川 寛	モダンアート展出品
下時次郎秀臣	白日会入選	鎌田 富則	モダンアート展出品
河野 太郎	東光会出品	後藤田仁一	美術文化展入選
浅田 二郎	東光会出品		関西展入選
青山 盛雄	東光会出品	今田 史男	美術文化屋出品
永山 隆二	美術文化展入選		(ヌーベル賞)
	関西展入選	多田 青叙	一水会出品
岡 多実子	新象美術展出品	黒崎 志郎	示現会出品
	仏サロン・ドートンヌ展入	岡久 薫	示現会出品
	選	河野 公子	示現会入選
富野 徳	旺玄会出品	島村 英之	示現会入選
			(会友推挙)

付記 まだ具体案は決まっていないが、来春一月に第一回美協洋画部会員展を開催の予定である。会場は新装なった駅前そごうの大ギャラリーを予定している。

写 真 部

部 会 長 西 條 征 二

年 間 展 望

第37回展も大阪芸大教授の岩宮武二氏をお願いした。岩宮武二氏は非常に多忙の中でも、徳島県展については万障くり合せて最優先で来て頂いている。ありがたいことと感謝している次第である。

第37回展の総評は近年で最も充実しているとのことであった。昨年の第36回展でも高水準であるとの評であり、本県のレベルがほぼコンスタントに上昇しているとの判断がなり立とう。現在の写真はいろんな傾向、方向で実に多様である。会員諸兄のこんごのますますの研究と努力を祈るものである。

第37回展の出品者は昨年と同数の141名。入選者は72名。入選点数の割合は535点の出品に対して26.3%と、昨年とほぼ同率の大激戦となった。特に目につくのは新しい人の台頭と、大ベテランと目される人が相当に苦戦したことである。写真界の動向とにらみ合せて来年度の結果を見まもりたい。

ここ数年急速に成長して来た森賢一、橋本圭祐君が本年度の受賞によって念願の無鑑査作家となる。招待作家を目指して頑張ってはしいものである。中野健吉、前浦芳久君が昨年に引続き特選を射止め、はやくも無鑑査作家に王手をかけた。田村泰弘、林敏彦、尾崎孝幸君など入賞を続けている作家も無鑑査に対して最短距離であろうし、期待することが大きい。

例年のことながらカラー作品が相かわらず、ふるわぬのはどうしたことだろう。19点の入賞作品でカラーはわずかに2点であった。審査員によれば従来より向上していることは間違いないとのこと。カラー時代に対応しなければ本県のカラー作品は遅れてしまう。向上しているのこを力にして研究して頂きたい。

博美展は林敏彦君が3年連続受賞。これは大変なことで立派としか云いようがない。新人が上位に名を連ねたのが特徴であった。

会員の所属するクラブ展は、今年度は低調であったようである。個々に立派な作品はあったが、何分展覧会そのものの開催が少なかったようである。発展、写楽展、リアリズム写真集団の身辺写抄展などが記憶に残る。

彫 塑 部

部 会 長 河 崎 良 行

年 間 展 望

第37回県展の審査は、具象系作家の年にあたり、特異な風景彫刻で名が知られている東京芸大講師（新制作会員）の山本正道先生に来ていただいた。今年の県展はベテランの無鑑査出品と不出品が重なり、例年のような大作が見られず、淋しい審査風景となった。「全般におとなしいが、もうちょっと大胆に思い切って仕事をしてほしい」との審査評があったように、今回から二期制となり会場が広がっているにもかかわらず、作品は小型でおとなしいものが多かった。

部会の行事として、昨年はデッサンの実技講習会を5月から7月にかけて10回にわたり実施した。57年度は県美術講習会（デッサン実技講習会）の依頼をうけ、7月25日、徳島市中央公民館において開催した。モデルをはるばる京都から呼んで、県内ではめずらしい裸婦のデッサン講習会となった。

また、例年行っている彫刻公開講座としては、一般から参加者をつのって現代彫刻団体鑑賞会を開催した。神戸市須磨離宮公園で開催されていた現代彫刻展会場へ出向き、彫塑部委員が解説役として作品を見ながら現代彫刻について話し合った。

県展の振興策として「部会展を開いてはどうか」との意見があり、今後は、彫塑実技の公開講座と併せて検討したい。

その他の活動としては、彫塑部会の多くのメンバーが参加している徳島彫刻集団の活動があげられる。5月には例年のように徳島公園で野外展が開催され、多くの力作が展示された。また8月には、初めての東京展（於、銀座アートホール）が行われた。

〔個人消息〕 井下 俊作	行動展出品	東京都美術館
鎌田 邦宏	二紀展出品	〃
	個 展	UZU珈
河崎 良行	二紀会員展出品	東京セントラル美術館
	個 展	大阪・画廊淡路町あーと
	二紀展出品	東京都美術館
沢井 良明	第一美術展入選 銀賞受賞	〃
瀬部 瑞城	自由美術展入選 県芸術祭優秀賞受賞	〃
浜口 恵	モダンアート展（版画）出品	東京都美術館
藤田 倫子	二紀展入選（絵画）	〃
松永 勉	行動展出品	〃
吉田 尚行	個 展	県郷土文化会館
	彫刻研究のため渡伊（7～8月）	

美術工芸部

部会長 釜 床 誠 一

年間展望

第37回展は、東京芸術大学教授田村耕一氏を昨年につづいて再度お迎えして審査が行われた。

出品数は64点で入選40点展示数は49点であった。審査は、制作に対する姿勢・態度がはっきり表わされた意欲的なものを入選とし、技術的にすぐれていても、工芸の範ちゅうに入らないもの、ただ手芸的・彫刻的といったものは外された。藍の色をうまく生かした染め物や、全国レベルの陶器が多数出品され、全体的に質の高い作品が集まっていた。

審査評については、特選作の川原万立子氏の「藍水」は、布地がやわらかく、色合いがよい。また色合いがよく、だれでも一度着てみたいという感じを受ける。

谷育子氏の「室戸岬台風接近」は色彩がよく、装飾性を考えた意欲的な作品。

松下慶一氏の「窯変壺A」は渋い色合いで、形の整った力のこもった作品だ。

なお今後のアドバイスとしては、藍染めは、それ自体にじみな色合いなので、デザインの工夫がなくても見せることができる。しかし単調となりがちなので、デザインや絵画の勉強をもっとやってほしい。また陶器は、典型的なものが作られがちなので、おもいきった創意工夫が必要だ。と言われた。

展示については、例年出品数の増加と大作が多くなり、大変狭苦しい感じであったが、本年度より他の部の皆さん、事務局のご配慮によりB展示場を割り当てられ、面積も約二倍となり、すっきりとした展示ができるようになった。出品者の皆さんと共に大変嬉しく思います。

中央展、グループ展、個展等も多数の会員が力作を出品入賞し、多大の成果をあげている。新居猛氏は、57年6月に社団法人発明協会より「折りたたみ椅子」の作品に昭和57年度全国発明表彰・日本商工会議所会頭発明賞を受賞したことは、会員の皆さんと共にお喜びを申し上げると共に、氏の長年にわたる創作椅子に対する情熱と意欲の成果であると思う。

最後になりましたが昭和32年以来20年余徳島県工芸部の発展のために献身的にご指導ご支援下さった東京芸術大学名誉教授 山脇洋二先生が去る57年12月末にご逝去されました。審査にも22回展以来35回展まで5回ご来県いただき常に徳島県美術工芸の発展を思いご親切なご指導をいただきました。また13回展以来は毎年審査員の先生のご推せん等のお世話までいただき、ほんとうに徳島県美術工芸部のためには、なくてはならない先生で、まことに残念です。先生のごめい福をお祈りいたしたいと思います。

〔個人の消息〕

多智花佐代子	3月	日本現代工芸展入選会友	東京都美術館
新居 猛	3月	昭和57年度全国発明表彰 日本商工会議所会頭発明賞	東京ホテルオークラ
矢野 款一	5月	個 展	神戸三越

小笠 道子	5月	第一美術展入選	東京都美術館
九十九健二	5月	"	"
森 昌男	6月	藍染グループ展出品	四国電力ギャラリー
橋 恵	7月	全関西美術展入選	大阪美術館
"	8月	新人染色展入選	京都市勧業館
多智花佐代子	8月	現代工芸四国会展出品	高松市三越
新居 猛	9月	日本インテリアデザイナー協会 受賞記念JID3人展	大阪永大インテリアプラザ
矢野 款一	9月	第29回日本伝統工芸展入選	東京三越
松下 雄介	9月	"	"
井後 宏	9月	第16回財団法人日本七宝作家協会展会員出品	東京都上野美術館
小笠 道子	9月	"	"
新居 猛	10月	金沢四百年記念〔国際工芸デザイン交流展〕招待作品	石川県産業展示館
"	10月	JIDA〔創立30周年記念展〕招待出品	東京六本木・アクシス
矢野 款一	10月	作陶20周年百皿展	徳島郷土文化会館
森 浩	11月	日本民芸公募展入選	日本工芸館
矢野 款一	11月	個 展	丸亀 田中画廊
松下 雄介	12月	第三文明展入賞	東京都美術館
松下 慶一	12月	"	"

書 道 部

部 会 長 田 中 双 鶴

年 間 展 望

年内県下で開催された書道展の主なもの、博美展、県展および県芸術祭参加の17種の社中展等で、何れも努力と精進の成果を、趣向をこらして華やかに開かれた。又中央展や県外展において審査員として活躍した人や公募展に応募して入選入賞した作家も多く、本年の書道人の活躍健闘は、目ざましいものがあった。

◎第23回博美展（書道5/26～30）

出品総数257点で、入選数は134点という厳選であった。

作品の質は次第に向上し充実したことが本年博美展の特長であった。

（博美賞）表原 輝実

（優秀賞）豊田佳代子、早沢 幸子、山中 真紀、大松佳代子、福永 美泉、佐藤 公代、
光井 明美、清村 宗子、大南 りか

◎第37回県美術展（書道11/13～16）

本年の県展は2期制を採用し、書道は第2期として単独4日間の会期で開催されることとなり、郷文3階全館使用となった為、作品の大きさも（A）2×8、（B）2.6×6、（C）連落、（D）半切の4種類として募集した。

応募総数は、昨年を上廻ること209点に及び、1062点の大量出品となり、書道人口の増加をひしひしと感ぜられた。入選率は42%で、入選446点を決め、その中から特選11、準特選19、秀作70点が選ばれた。作品は大作が多く、多彩となりレベルも向上して見ごたえのある作が多くなった。

（審査員）荒井 天鶴、田中 双鶴、田中 栢翠、富永 眉峰、西岡 楚峰

（特 選）（漢字）武市 鳴雲、佐藤 真堂

（仮名）中尾 勝子、松田 友栄、山中 真紀、藤若 美風、若木 聖章、
吉岡 景鵬

（近代詩文）坂本 霄風、永松 春苑

（前衛）日下 溪翠

（準特選）（漢字）岡田 華園、隅田 英二、島田 小園、亀石 文苑、川城 峰碩
（仮名）清水 嘉子、大石加代子、富久 鳴泉、犬伏 礼子、広島 章子、
市原 瑞江、高島 瑞峰、松本 清香、尾田 艶子、磐崎 永醒

（近代詩文）久米 聰雨、多田 清芳、小田 創風

（前衛）竹内 秀翠

（秀作）70名（氏名省略）

◎第16回県芸術祭（9月～12月）

- ・書道の参加行事は17種で、何れも盛大に充実して開催された。

第29回書芸院展（9／2～5）

第11回徳島雪心会書作展（9／2～5）

第5回泉心会書作展（9／2～5）

第17回清潮会書作展（9／10～12）

第11回東玄書道会展（9／10～12）

第12回直心会書展（9／17～19）

第6回大日本書芸院徳島連合展（9／21～23）

徳島書人会第8回克展（9／24～26）

徳島市内五高校書道展（10／15～17）

徳島かな書道研究会第7回書道展（10／16～18）

第10回徳島県勤労学徒美術作品展（10／16～17）

書研社展（10／23～24）

第12回光輪社書作展（10／23～25）

高原清泉書作展（11／21～23）

徳島県硬筆書道研究会第16回県芸術祭硬筆書道展（12／4～5）

第3回秀美書展（12／17～19）

第3回臨池会書展（12／24～26）

- ・昭和57年度県芸術祭優秀賞

久米 聰雨、新居 藍水、山本 寛水、高田 青蓮、西谷 公子

〔個人消息〕

◎中央展・県外展において審査員として活躍し、審査員作品を発表した人々

- ・第23回太玄書展（1月）

田中 双鶴、中谷 史子、近藤 静苑、松田 友栄、中尾 勝子

- ・第35回書道芸術院展（2月） 西岡 楚峰

- ・第4回日本書道学院展（2月） 勝瀬 景流

- ・第18回創玄展 荒井 天鶴、久保 幽香、成尾 荘秀、三木田栖鶴

（学生部）大松 碩城、芝原 醒鶴、岸 潮風、栗田 白蓉、喜田村成蹊、青柳 皐陽、

- ・奎星展 田中 栢翠

- ・第36回日本書芸院展（4月） 勝瀬 景流

- ・第6回由源全国書展（5月） 勝瀬 景流

- ・第47回全日本ペン書道展（7月） 勝瀬 景流

- ・第26回東方書道展（7月） 仲 三千人

- ・青潮書道会展（9月） 高原 清泉、西 南竜

- ・第4回東京書作展（東京新聞）（11月） 田中 双鶴

◎中央展・県外展において役員として作品を発表した人々

- ・第23回太玄書展（1月） 春藤 大耿、田村 昇鶴

- ・第10回日本の書展（2月） 久保 幽香

- 奎星展（3月） 前川 古舟
- 日本の書展選抜展 勝瀬 景流
- 第13回聖雲書道会展（3月） 勝瀬 景流
- かな50人展（4月） 勝瀬 景流
- 青潮書道会選抜展（4月） 高原 清泉
- 近代詩文作家協会10周年記念展（6月） 久保 幽香
- 第34回朝陽会書作展（6月） 勝瀬 景流
- 東方書道展（7月） 上田 溪水
- 全関西展（7月） 上田 溪水
- 第34回毎日日本書展（7月） 勝瀬 景流
- 第34回毎日現代書展（7月） 田中 栢翠、久保 幽香
（会員）成尾 莊秀、三木田栖鶴、長原 皐鶴、芝原 醒鶴、岸 潮風、荒井 彭仙
- 第4回日本書道学院展 吉岡 景鵬、藤井 扇舟、海野 景泉
- 第7回日本の女流書展（8月） 久保 幽香
- 青潮書道会展（9月） 島田 小園、福永 美泉
- 成田山大塔建立献書（10月） 田中 栢翠、田中 双鶴

◎中央展・県外展に入賞した人々

- 第23回太玄書展（1月）
（特別賞） 清水 嘉子
（会員新人賞） 瀬藤 豊子、炭谷 葭江、竹田 和代、西谷 公子
（推薦） 藤井 春琴、近藤 聖邨、亀石 文苑
（準推薦） 谷口 汀鶴
（特選） 奈木 雪江、犬伏 礼子、大南 りか、古山 久子、早沢 幸子
（佳作） 高田 江雲、大松 洋子、簗手 洋子、中村 佳子、青谷 薫、
秋吉 叔子、棚橋千代美、三木 浩美、
- 第35回書道芸術院展（2月）
（佳作） 加藤 芳仙、磐崎 永醒
（褒賞） 横井三知代、若木 醒章
- 日本書芸院展（2月）
（特別賞） 上田 溪水
- 第18回創玄展（3月）
（一科秀逸） 坂本 霄風、浜 佳香、荒井 彭仙
（二科賞） 藤田 弥山
（準二科賞） 豊田 乾香、日開 皐扇、山口 文子、野村 英僊
- 第18回関西現代書展（6月）
（読売新聞社賞） 佐原 和清
- 第34回毎日現代書展（7月）
（秀作） 永松 春苑、八島 芳泉、林 桂翠

• 青潮会書作展（9月）

- （一科毎日賞） 長楽 優香
- （一科奨励賞） 川上 虹泉
- （一科特選） 岡田 華苑、三間 好鷺
- （一科準特選） 寺内 喜峰、田中 昭峰、大下 江波
- （一科秀作） 西岡 美鳳、大平 京蘭
- （二科特選） 鹿島 翠鳳、岩佐 香苑
- （二科準特選） 大梅 溪村

• 第4回日本書道学院展

- （特別賞） 赤岩 景琴、堀淵 琴流
- （推薦） 薄田 玲泉
- （特選） 赤川 景舟、石川 扇流、小浜 景玉、桐野 玉葉

• 第14回日展（入選）（10月） 伊丹 東竜、勝瀬 景流

• 第2回バリー芸術祭

- バリーボザール協会会長賞（最高賞） 田中 双鶴

商業美術部

部会長 宗 定 盛 男

年間展望

◎第23回 博美展

逐年レベルアップして新鮮な感覚の作品が増えた事は大変いい傾向にあると思う。が一方若い人達の作品の中にレイアウト、レタリング、色彩のアンバランスなど、まだまだ問題点を残しているものも多く、更に一考二考、今後の精進を望みたいものだと思う。受賞作品、又同対象候補として名を連ねている人達の作品は、抜群に優れ、本県を代表する作家であると同時にその個々は全国的にみても高く評価されてもよいものであろう。ともあれ今後ともすばらしい作品より多く喝望したい。

応募点数47点 入選点数27点 [博美賞1点 優秀賞2点を含む]

◎第37回 県美術展

今回展は、グラフィックデザイナー粟津潔氏に審査をわずらわした。審査評は前回展と同様地方レベルとしてはまずまずと言い全般的にクリエイティブな感覚が乏しく、小手先の技術に走るとおっしゃる。又個性を大切にすべきであるともいわれて今更のようにごもっともと思った。又全般的に見て意気ごんだだけの作品が多いのと個々にバランスにもう一工夫欲しいもののがかなり目立った。展示も壁面が変わって大変見やすくなり結構であったと思う。

応募点数78点 入選点数46点 [特選3点 準特選2点を含む]

県郷土文化会館展示室のより良き利用のために！

県美術展及び各種団体・グループ展などで県郷土文化会館を非常に沢山利用させていただいておりますが、もっと便利に、もっときれいにという声もでてきましたので、皆さんの声をまとめまして、会長から県郷土文化会館に別紙のようなことをお願いいたしました。

(なお、その後県郷土文化会館の御厚意により改善していただいた点もあります。)

要 望 書

県郷土文化会館は、開館以来十一年を経過し、三F美術展示室は、内部の施設に、改装を要する点が出てきました。

新しく、向寺山に、美術館建設の準備が進められてはいますが、貴館は、市の中心部に位置し、今後共に県美術展、その他の美術展の展示場としての利用度は高いと思います。

左記の点について、改装して頂くよう要望します。

記

1 大展示室

a、中パネルのクロスの取替

(クロスの色は、壁面と同じ、白色にする。)

b パネルの脚を床面まで下げる。

c 周囲三方の戸板(上部)の色を、壁面の色(白色)にあわせる。

d 周囲四方の壁面の中で展示レールを設ける。

2 A展・B展

a 可動パネルの布(白色)を張りかえる。

b パネルは、上部を高く、下部は、黒色の脚が、できるだけ見えないうにする。

c B展の6、8室の壁に穴あきパネル(A展)の壁面を作る。

3 照明

a 作品の前部に蛍光灯(無紫外線・二灯用)のものを新設する。

b B展の照明カバー(中央)を新しいものと取替える。

c 当面・(a)(b)が不可能なれば、B展の蛍光灯のカバーを取除き、A展のようにする。

徳島県美術家協会

会長 河野 太郎

徳島県郷土文化会館

戸井理事 長 殿

第37回徳島県美術展(県展)公募規定

部門 区分	日 本 画	洋 画	写 真	彫 塑	美術工芸	書 道	商 業 美 術
搬入日	10月17日	10月16日	10月10日	10月17日	10月17日	10月10日	10月17日
搬入先	徳島県郷土文化会館						
審査日	10月17日	10月17日	10月10日	10月17日	10月17日	10月11日	10月17日
審査員	下田 義 寛	野見山 眺治	岩 宮 武 二	山 本 正 道	田 村 耕 一	荒井天鶴・田中双鶴 田中栢翠・富永眉峰 西岡楚峰	粟 津 潔
出品料	協会員 1点目 1,500円 その他の方 1点目 2,500円 ・2点目からはすべて 1,000円						
出品制限・大きさ・仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> 未公開作品に限る 点数は制限なし 小・中学校在学者は出品できない 20号以上 100号まで、横幅2m以内、額・枠張り(ガラス不可) 	同 左	<ul style="list-style-type: none"> 同 左 組・単写真とも画面サイズ、半切以上(カラーは印刷に限る) 無鑑査以上は画面サイズ半切以上、単写真に限る 枠張り・額(組写真は1パネルに全作品をレイアウトしたもの又は全作品を固定したもの) 	同 左	<ul style="list-style-type: none"> 同 左 高さ2m×幅1.5m×奥行1.5m重量200kg以内 材料は自由、展示可能なものに限る 	<ul style="list-style-type: none"> 同 左 大きさは①61cm×242cm(縦のみ)②79cm×181cm(縦横自由)③連落(中味)(縦横自由)④半切(中味)(縦横自由) 額・枠張り 部門は漢字・仮名近代詩文・前衛とする 	同 左
入 賞	特選 3 点 準特選 2 点 入 選 若干名	特選 5 点 準特選 6 点 入 選 若干点	特選 8 点 準特選 11 点 入 選 若干点	特選 1 点 準特選 2 点 入 選 若干点	特選 3 点 準特選 2 点 入 選 若干点	特選 10 点 準特選 19 点 入 選 若干点	特選 3 点 準特選 2 点 入 選 若干点
その他	<ul style="list-style-type: none"> 落選作品は審査終了後、各部門で決められた日時までに搬出すること。 展示作品は第1期・第2期の会期終了後、決められた日時までに搬出すること。 所定の期日までに搬出しない場合は、主催者において処分する。 						

招待・無鑑査・特別出品者名 (*は都合により不出品)

☆ 日 本 画

潮雪子 夫弘 夫健 溪
 春凌 弘行 正靖 秋 暁
 待 藤上 尾野 本測 川野
 (招後村長 萩橋田中 矢
 * * (特別出品) 野原 岡田 内
 * 庄篠高 高山 山之

☆ 洋 画

志二 悝雄 史孝 等 敬 巖 幸
 呂 比隆 亟文 隆康 敏 秀太い 公 さ
 待 野山水 川原 瀬橋 岩口 木野 沢井
 (招佐永 清泰 中川 楠高 立露
 * * (特別出品) 桜河 平長

☆ 写 真

仁次 雄
 正清 光
 待 島田 上

之二 夫梵 亨雄 魏司 義
 英征 雅 敏 博 和 良 文 俊 邦 文
 田条 西井 内田 測井 好 待 崎藤 津口 下田 東
 木西 勝藤 武笹 柳酒 三 彫 (招河佐 大浜 井鎌
 * * * (特別出品) 坂

☆ 彫 塑

行隆 昭惠 作 宏 夫
 一 猛勇 男浩 郎子 介 之 武
 誠 昌 猪 佐 雄 幹
 三 代

☆ 美 術 工 芸

待 床居 橋 条花 下 井 橋
 (招釜新 高森 森七 多松
 * * (特別出品) 堀高

☆ 書 道

鶴 鶴 翠
 天 双 栢
 (審 查 員) 井 中 中

峰 峰 香州 泉人 雨鶴 泉龍 秀石 幽月 鶴鶴 舟月 賀 耿風 子峰 流泉 鷺苑 仙城 水子 代 秀
 眉 楚 幽藍 泰三 青阜 清南 莊草 清霄 栖醒 古桂 幾大 潮史 美景 虹好 静 彭華 溪順 和 泰
 永 岡 待 保居 岐 井原 原 尾 辺 江田 田原 川水 馬藤 谷 谷 瀬 上 間 藤 查 井松 田島 田 藤
 富 西 (招久 新讚 仲官 長高 西成 渡長 原三 芝前 清美 春岸 中長 勝川 三 近 (無 鑑 査) 荒 大上 岡竹 (特別出品) 後
 千 美

☆ 商 業 美 術

宗 定 盛 男

博美展博美賞受賞者一覽 (昭和41~57)

年度	回	日 本 画	洋 画	写 真	彫 塑	美 術 工 芸	書 道	商 業 美 術
41	7	西岡範子	高橋敬	平山成美	細川直毅	森 浩	長原卓鶴	
42	8	中川健	長條公子	吉田紀夫	神原八重美	"	長江清幽	
43	9	天羽成芳	浜正寛	中西定雄	谷村薰子	長條公子	渡辺草石	
44	10	片岡良治	板東弘憲	川上健司	小野寺 穰	大西 光	成尾荘秀	
45	11	長谷 寿	"	原田敏雄	松永 勉	松下雄介	芝原醒鶴	
46	12	真鍋 学	霜田精奏	"	霜田精奏	"	喜多村成暎	
47	13	"	関政明	隅地通雄	玉田修平	"	中口 操	
48	14	今川一水	小梯蔦子	矢口保二	吉田伯美	"	田中美智子	糸井由美子
49	15	大久保雅生	岡久 薫	吉田正勝	井藤信正	"	中尾勝子	永井道子
50	16	釣島冬樹	真野孝彦	大西健一	露口幾也	"	久米聴香	松波美子
51	17	吉崎進	矢本次郎	小池良洋	美濃和子	多智花佐代子	山本寛水	森 敏香
52	18	大久保雅生	四宮久子	湯本一生	榎本宏子	香川文孝	大松静子	増田伸寛
53	19	小松久子	島川清	東条かつこ	中岡陽子	"	佐野天靖	浅野昌哉
54	20	日浦猛史	四宮久子	森 貢	伊勢洋子	松下慶一	長谷頌石	永井道子
"	"	大賞 西野和男	岡田守	東条かつこ	(該当者なし)	多智花佐代子	鈴木郁子	竹森陽一
55	21	中西芳雄	宮本陽子	林 敏彦	瀬部瑞城	香川文孝	武市鳴雲	増田和夫
56	22	佐々木文子	藤川明子	"	(該当者なし)	松下慶一	佐原和清	田村千代子
57	23	金子綾子	"	"	井上史朗	日浦久代	表原輝実	寺本礼子

あ と が き

昭和57年度美術年報をおとげします。

表紙は写真部の武内亨氏からいただきました。

また、例年どおり各部会長からも各部に関する動きをご執筆いただきありがとうございました。

四国の他の三県の県展状況について洋画部長平沢いさむ氏から昨年いただいていたのですが、編集子の手落ちから一年おくれて掲載することになってしまいました。

「日刊新愛媛」の美人記者の取材によるものだそうで参考にしていただければ幸いです。

記録をおもちの方、またいろいろな思い出を綴っていただける方がございましたら、どうぞおよせ下さるようお願いいたします。

会員の皆様が、ますますご健康で創作活動に励まれますよう心からお祈りいたします。

昭和58年3月

県美術家協会事務局

昭和58年3月20日 印刷

昭和58年3月25日 発行

編集者 清水博

装幀者 武内亨

発行人 河野太郎

印刷所 原田印刷出版株式会社

発行所 徳島県美術家協会
徳島市城ノ内1
県立図書館内TEL52-3151